

SDGsセンターシンポジウムを開催しました！

12月23日（月）に、SDGsセンターシンポジウム「医療現場の多文化共生最前線～言語や文化の见えない壁を超えて～」をさくら講堂にて開催しました。

第一部の講演では、名古屋医療センターの今橋医師・羽柴看護師、愛知県多文化共生推進室のヤマグチ氏より、県内の医療現場における外国人患者さんに対する先進的な取組事例をご紹介いただきました。第二部のディスカッションでは、名古屋市立大学の留学生へのインタビューを聴き、異なる国や文化・習慣を有する学生・教職員がお互いを尊重し、ともに学べる大学であるため、私達に何ができるかを考えました。

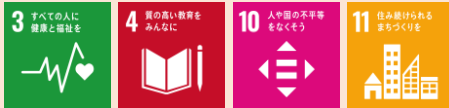
当日は本学の教職員、学生のほか、企業関係者、他大学教職員、自治体職員など、90名を超える方々が参加しました。裏面のコラムに、ディスカッションの内容を紹介していますので、是非ご覧ください。



講演の様子（今橋医師）



ディスカッションの様子



SDGsまつりに出展しました

11月22日（金）に名古屋東京海上日動ビルディングで開催された「SDGsまつり」にブース展示をしました。このイベントは「第5回SDGsフェスティバルin名古屋丸の内」（東京海上日動火災保険株式会社／株式会社十六フィナンシャルグループ共催）のオープニングイベントとして開催されたものです。

当日は、経済学研究科の鶴飼教授が監修した「ねこ店長の経営学」や経済学部山本ゼミの学生が考案した「パッチワーク日記」など、研究、教育、学生活動の取り組みをはじめ、本学のSDGs達成に向けた活動をポスター等で展示を行い、広く紹介しました。

行政、企業、他大学など訪問された方々から高い評価を得たとともに、SDGsの取り組みに関する情報交換を行うことができました。



出展ブース

名古屋六大学プロギングを実施しました

11月24日（日）に名古屋六大学の取り組みの一環として、学生たちが合同で「名古屋六大学プロギング」を実施しました。プロギングは、ジョギングとごみ拾いを組み合わせたスウェーデン発のフィットネスです。

当日は、61名の学生（うち、本学学生6名）が参加し、名古屋六大学の学生混合チームが各大学から川名公園までプロギングを行いました。

所属大学を超えて学生が交流でき、合計9.8kgのごみが集まりました。

●名古屋六大学について

名古屋市内の名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、南山大学、名城大学、中京大学は、2023年5月28日に国公立の枠を超え、教育・研究・学生交流の分野での連携・協力に関する協定を締結しました。



プロギングの様子



コラムの第8回は、名古屋市大の「国際交流」に目を向けてみたいと思います。本学では「国際交流センター」を設置し、ここを中心に、留学生の受け入れや学生の海外派遣、海外の研究者との国際共同研究の推進などを行っています。今回は、そんな名古屋市大の「国際交流」についてご紹介します！

名古屋市大の国際交流について

本学では、国際感覚豊かな人材を育成するため国境を越えた学生交流の推進、国際的な共同研究・支援活動の促進、地域の国際化への寄与や国際社会への貢献などを旨とし、「[国際交流センター](#)」を設置しています。国際交流センターでは教員の海外派遣や外国人研究者の受け入れの支援のほか、海外の大学との学術交流協定の締結を推進しています。また、世界各地に位置する7つの本学の拠点校を一堂に介した「拠点校シンポジウム」のほか、留学支援や留学生と日本人学生が交流する機会となる様々な行事を開催しています。



- ★大学間交流協定：59大学
- ★学部間等交流協定：22機関



- ★国際交流センター公式団体
 - ・NCU GO!：留学生交流サークル
 - ・よいしょ：日本語学習サークル
- 活動の詳細はこちらから↓
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/international/center/06181350/>



- ★留学生数：148名 (R6.5.1時点)
【主な出身国】
中国、韓国、インドネシア など

SDGsセンターの取り組み

昨年12月23日に、SDGsセンターでは多文化共生をテーマにしたシンポジウムを開催しました。シンポジウムの第二部では、名古屋市立大学に通う留学生へのインタビューをもとに、本学での多文化共生について考えるディスカッションを行いました。その内容を少しご紹介します。

留学生が日本で感じた「違い」

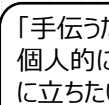
来日したばかりの頃、先に話しかけてくれた人がいて、とてもありがたかったが、自分を「手助けをするべき相手」としてしかみてもらえなかった感じがし、悲しくなった。外国人という「弱者」で助けてあげないといけない人と映ったかもしれないが、同じ名古屋市大で学ぶ友人として、日本人学生と対等の立場で関係性を作りたい！

⇒**自分が望む日本人学生との関係、配慮に対するのギャップ**



教員

手伝うためであっても、話しかけられたら嬉しいものだった（自分も留学先でそう感じたため）。来日したばかりの留学生に話しかけるのは普通だと考えていたので、新鮮な意見だと感じた。



留学生

「手伝うため」に、話しかけてくれることが嬉しい人もいる。個人的には日本人と（一緒に学ぶ友人として）対等の立場に立ちたいと考えているので、いつまでも「配慮しなければいけない存在」というのは受け入れたくない。



ファシリテーター

本学は近隣の大学と比べると、まだまだ留学生が少なく、関わるのが当たり前になっていない。留学生がいることが普通になれば、交流が日常的なものになり、互いを理解し合えるようになると思う。交流できる機会や場所づくりも必要。



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

国際化が進む中で、多様な文化や価値観に触れ、国内外の多彩な文化や歴史、言語の背景をもつ人々と共に生きていくためには、お互いを尊重し理解を深めることが不可欠となっています。シンポジウムでは、医療現場での現状や課題、そしてその解決法について認識できたとともに、留学生の“生の声”を聴くこともでき、よりよく学び暮らせる多文化共生の実現のためのヒントになりました。

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
(企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

